

第3回 新清掃工場等の啓発施設整備に係るワークショップ

報告書

1. 開催日時：平成27年2月14日（土） 午後1時30分から午後4時30分

2. 開催会場：浜北文化センター 第2会議室（浜松市浜北区貴布祢291-1）

3. 参加者状況：35名、浜松市担当課職員 5名

担当課職員：課長 富田昌和、山口佳伯、市川智一、安達義光、松本佳巳

司会：荒木信幸、ファシリテーター：松田 智

受付：藤田由己、外山直美

班名	リーダー	環境審議会ごみ減量部会	下阿多古地区	一般公募
サクラ	小楠 一	安間 清弘		市川 美鈴
				内山 ゆきゑ
				千葉 悠介
キンモクセイ	岩田 政行	土屋 京子	野中 賢一	古橋 和子
				吉川 徹
モミノキ	野中 正子	土橋 登巳代	和田 憲治	岩田 浩輔
				岩田 康昭
ドウダンツツジ	高根 侑美	藤本 忠蔵	小柳 啓幸	長谷川 雄将
				森廣 紀昭
				飯尾 美行
クロモジ	高根 美保	村山 孝司	橋本 啓一	瀬崎 秀五
				米津 健次

4. 報道関係者：なし

5. 内容：

(1) 第3回ワークショップの趣旨 説明

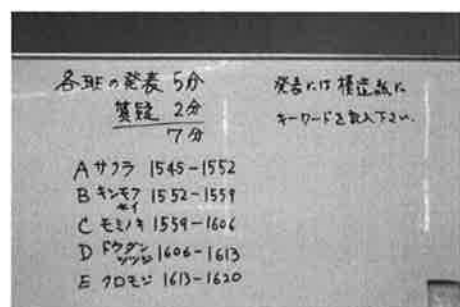
(2) グループ会議

論点1：啓発施設の具体的な「青写真」とは？

(3) 各グループ「まとめ」発表と質疑応答

(4) 全体の総評：浜松市環境部廃棄物処理施設管理課 富田課長

(5) 閉会の挨拶とお礼



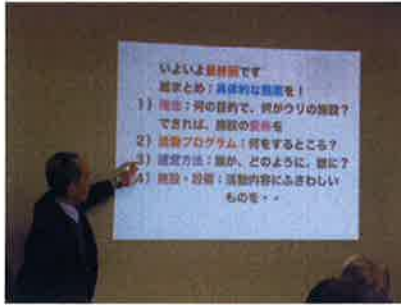
- 6. 報告書：表紙 事務局 高根作成 2枚
 報告書 ファシリテーター 松田作成 1枚
 各グループ報告書 グループリーダー作成 6枚

7. 会場の様子

開会あいさつ：荒木



趣旨説明：松田



会場の様子



サクラ



サクラ



キンモクセイ



モミノキ



ドウダンツツジ



ドウダンツツジ



クロモジ



質疑



総評：富田課長



最終回と言うことで、具体的な提案をまとめていただくことを目標に、できる限り実際的な内容を議論していただくよう心がけた。

その手段として、企画プログラム・主旨・対象者(需要先)、仕組み、効果、設備、運営者・体制(資金)の各項目を埋めていただくようお願いした。また、最初の方で議論した「施設の理念」を具現した象徴としての施設の「愛称」も提案していただくようにした。

結果は、各グループの報告書にあるように、それぞれ個性的な、斬新なアイデアに富んだ内容となった。

市中から離れた山中に設置される施設と言うことで、立地を意識した内容の提案が多く、特に、地元の鹿やイノシシ、川魚等を活かしたジビエ料理関連の提案は、相当数のグループから提案された。更に、地域コミュニティの拠点あるいは防災拠点(備蓄施設や屋上ヘリポートなど)と言った、他の多くの環境啓発施設ではあまり見られないような性格付けも行われた点が注目される。

また、余熱利用の観点では、西部清掃工場で大型水泳場への給湯がなされていることを踏まえ、かなり大きな規模の熱利用が可能とした前提での、ユニークな提案が見られた。これも、本施設を他の施設と差別化するための工夫の一つであろう。

施設の愛称についても、良く考えられた提案が多く、どれを選ぶべきか大いに迷うような魅力的なものばかりであった。

以上、3回のワークショップを通じて、市民視線からの魅力的な環境啓発施設のあり方について、これまでにない大胆・斬新な企画が数多く提案されたことを、高く評価するものである。

施設名：桜パーク

サクラ班
(グループリーダー：小橋 一)

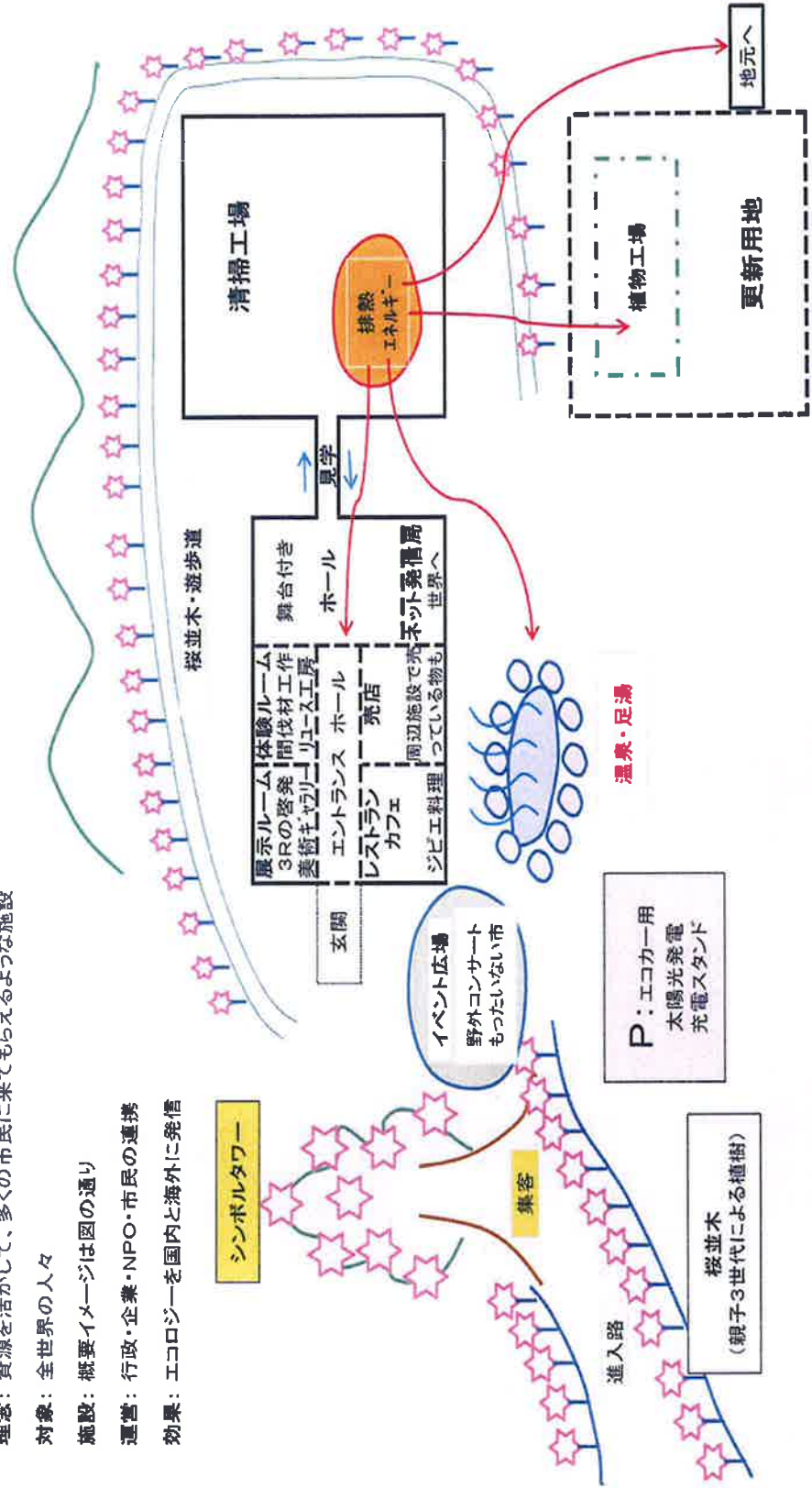
理念：資源を活かして、多くの市民に来てもらえるような施設

対象：全世界の人々

施設：概要イメージは図の通り

運営：行政・企業・NPO・市民の連携

効果：エコロジーを国内と海外に発信



テーマ：市民が積極的に利用し、かつ市のごみ政策（3Rなど）に対する意識啓発が効果的になされるよう、

周辺環境を活かした諸設備やプログラムを啓発施設整備に反映するための市民の意見

理念：資源を活かして、多くの市民に来てもらえるような施設

企画 プログラム	主旨	対象者 (需要先)	仕組み	効果	設備	運営者 体制 (資金)
桜パーク (施設名)	未来につなぐ エコロジューを	全世界の人々	<ul style="list-style-type: none"> ・シンボルを明示 ・集客の手段を構築 ・3Rの啓発 ・エネルギーの利用 	本エコロジューを国内と海外に発信	概要：別紙参照 (仕組み等も含む)	行政・企業・NPO・市民の連携 (企業協賛)

新清掃工場等の啓発施設整備に係るワークショップ 第3回目

キンモクセイ班（グループリーダー 岩田 政行）

企画 プログラム	主旨	対象者 (需要先)	仕組み	効果	設備	運営者 体制（資金）
啓発施設 施設愛称： 「Reあたご」	来場者が自ら自然環境について学び・体験できる施設	施設見学者 (市民) 地域住民	・3Rを学べる展示物や体験コーナー ・エコ講座開催： ・ごみ減量：資源物の分別・回収 ・憩い場づくり 屋内：麻雀・囲碁・将棋 更新用地：グラウンドゴルフ ゲートボール ・子ども達が遊べる場所	・環境学習 ・地域住民の憩いの場 ・老化防止 ・子育て支援 ・市民団体の連携拠点	・建物：天竜杉を使用 自然の中にマッチして 存在感があるもの ・エントランス：阿多 古水景のジオラマ ・木工教室 ・自転車発電体験 ・資源物回収コーナー ・多目的ルーム：複数 ・更新用地：広場	NPO法人（地域 住民中心） 子育て支援団体 各種団体
自然とのふれ あい体験学習	阿多古の自然と森林の大切さを学ぶ	来場者	自然を実感する ① 食 ② 自然観察 野鳥・樹木・植物 ③ 自然体験 スタンプラリー ウォーキングラリー	来場者が自ら自然を実感し自然環境の大切さを学ぶ	① キャンプ場 ・バーベキュー施設 ・害獣の解体処理場 ② 遊歩道	管理委託： 啓発施設管理団体

企画 プログラム	主旨	対象者 (需要先)	仕組み	効果	設備	運営者 体制 (資金)
アクセス	公共交通機関 (バス・電車) を利用できる事で、誰でもが来場できる	来場者 地域住民	運走路線 西鹿島駅→新清掃工場→ 森林公園→あらたの湯 →岩水寺→岩水寺駅→西 鹿島駅 バス停以外でも乗降可能	① 地元住民の交通機関 ② CO2 排出削減 (車での来場抑制) 地元住民の交通手段	・1日8便程度のコミュニティバスの定期運行 ・レンタル自転車を西鹿島駅に設置	浜松市 委託：遠州鉄道
更新用地と エネルギー利 用	地産地消 集客と収穫	施設見学者 (市民) 地域住民	(1) 熱の利用 ①温泉・足湯 ②植物園：収穫、持ち帰り、 エコクッキング (2) 更新用地の利用 ① 災害時の避難場所 ② 貸出も出来る農園 ③ イベント会場 「もったいない市」会 場	清掃工場から出るエネルギーの有効利用と広い敷地の有効利用	(1)・①入浴施設 (1)・②植物園 ・調理室、IH ・レストラン (2)・①災害避難地 (2)・②畑 (2)・③広場	温室・農園： 運営会社 避難施設：浜松市 「もったいない市」等のイベント： NPO 法人

新清掃工場等の啓発施設整備に係るワークショップ 第3回目

モミノキ班 (グループリーダー 野中正子)

企画 プログラム	主旨	対象者 (需要先)	仕組み	効果	設備	運営者 体制 (資金)
<p>あたごの自然とくらし 「あたGO！」 くらし体験館</p>	<p>阿多古にしか無い啓発施設 阿多古のくらしを体験して感じ、気付いてもらう ①ジビエに親しむ ②現場を見て知る 散策コース</p>		<p>①-1 地元猟友会などが害獣(猪、鹿(害獣ではないが鮎を含む))を持ち寄り解体出来る場所の設置 ①-2 解体した肉を利用して調理できる実習工房をつくる ①-3 来場者が肉を利用出来る場所 ② 森林、農作物等が荒らされ被害を受けている場を散策路で結び実態を知る ③-1 しいたけの菌打ち体験ほだ木のオーナー制度 ③-2 地元の人と工場来場者が集うサロン 周辺散策コース ③-3 間伐材を利用した自由木工コーナー ③-4 サロンで遊ぶ(将棋盤など) 間伐材を利用して簡易なものを作るの場で作って使う</p>	<p>①-1 害獣をしとめても解体施設がなく困っている実情を改善できる ①-2 ジビエ肉の入手や調理法の伝承 ①-3 工場見学者に害獣肉が活きた教材となり、阿多古の自然と暮らしも守られる 「害獣」から森とくらしを守ることの意味を学ぶ ③-1 オーナー制度で1年に1回は必ず訪れてくれる ③-2 サロンを兼ね備えた施設。オープンで体験し、地元の人からしいたけのこと、くらしのことを学ぶことができる。(地元の人)が語り部の先生、生きがい ③-3 自然にふれ環境守る意識芽生える</p>	<p>・解体スペース ・大型冷凍庫 ・調理室、食工房 熱エネルギーは、清掃工場の廃熱を利用 鹿、に食べられた若木、猪に荒らされた農作物、畑などを配置する 画像等も含む ・調理工房に隣接する形で椎茸の菌打ちができる ・集えるサロンを兼ね備えたオープンな部屋 ・余熱でお湯を使った床暖房</p>	<p>・地元の人でNPO O設立(猟友会協力) ・「エコライフはままつ」のような中間でコーディネートとするNPO</p>
<p>※施設の外觀は魔法使いの館のようなもの 例:東区にでき話題となったアパトーみたいなの外觀</p>	<p>③ あたごに親しむ。みんなで体験、楽しむ</p>	<p>工場見学者と 地元の人</p>				





※施設建設提案図は模造紙の絵です

企画 プログラム	主旨	対象者 (需要先)	仕組み	効果	設備	運営者 体制 (資金)
遊歩道	阿多古の自然を学ぶ	市民 (観光客)	施設の外周に小さい駐車 場をいくつか設け、いつ でも誰でも利用可能な施 設にする	天然林と自然林の違いを 観察する 森の役割について考える 場を提供する	① バードウォッチング ができる場所 (1~2ヶ 所) ② 休憩所 (木造の小屋み たいなもの) ③ 机・椅子 (木製)、環 境啓発パネル (休憩所 内に設置) ④ 道中には樹木・植物の 説明パネル ⑤ セグウェイや電動自 転車の完備 (遊歩道内 での使用可能)	主体：浜松市 管理：施設委託先 ＜体制＞ 見学者には管理棟で地 図配布、モデルコース (いくつかのルート設 定) の提示
循環型エネル ギーのモデル パーク	足湯	市民 地域住民 (観光客)	清掃工場の熱エネルギー を有効利用する 無料での利用可能 無人での運営	エネルギーを大切に使う ことを実感する 清掃工場の熱エネルギー で100%運営する (エネ ルギーの地産地消)	① 更新用地に建設 ② 約20人用の大きさ ③ 屋外 (屋根付) ④ 自然林が見える山の 方向に設置 ⑤ 清掃工場の熱エネル ギーを利用している 旨の説明パネル	主体：浜松市 管理：施設委託先

企画 プログラム	主旨	対象者 (需要先)	仕組み	効果	設備	運営者 体制 (資金)
循環型エネルギーのモデル パーク	温室	市民 地域住民 (観光客)	清掃工場の熱エネルギーを有効利用する 足湯で使用した温水を再利用する 栽培した果物や植物を販売、その場で食べることも可能 →出たごみは堆肥化	地元の一つの産業になる(雇用の確保) 清掃工場の熱エネルギーで100%運営する(エネルギーの地産地消) 温室で栽培した果物は、「森のレストラン」で提供する(食物の地産地消)	① 更新用地に建設 ② ビニールハウス ③ 南国の果物(マンゴーやドリアン等)や植物の栽培 ④ 滝のように温水が流れたり、シャワーのように上から降ってきたりするコーナー ⑤ 足湯からの水の循環が見えるような設計	主体：浜松市 管理：施設委託先 <体制> パーク内のスタッフは地元の人達を雇用する
	釣り堀	市民 地域住民 (観光客)	清掃工場の熱エネルギーを有効利用する 温室で使用した温水を再利用する 釣った魚はその場で食べることも可能 →出たごみは堆肥化	清掃工場の熱エネルギーで100%運営する(エネルギーの地産地消) 釣り堀内で養殖した魚は「森のレストラン」で提供する(食物の地産地消)	① 更新用地に建設 ② 屋外 ③ ピラニア、ニジマス、ヤマメ等の養殖 ④ 魚の種類数に応じた釣り堀の完備 ⑤ 温室からの水の循環が見えるような設計	主体：浜松市 管理：施設委託先 <体制> パーク内のスタッフは地元の人達を雇用する 参加費は施設委託先により決定する

企画 プログラム	主旨	対象者 (需要先)	仕組み	効果	設備	運営者 体制 (資金)
管理棟	多目的ホール	工場見学者 地域住民	<p>工作・体験施設としての使用のほか、地域住民による集会や会議での使用も可能 (無料)</p> <p>災害時には緊急避難施設の拠点となる</p> <p>展望デッキ内の「森のレストラン」では、温室で栽培した果物や釣り堀で養殖した魚を提供する</p>	<p>啓発施設の魅力を高める</p> <p>理念に基づき、ライフスタイルの在り方を自ら気付き考える場を提供する</p>	<p>① 管理棟内に建設</p> <p>② 展示や環境啓発パネルの設置</p> <p>③ ごみ処理の様子を観察できるモニタを壁に設置</p> <p>④ 移動型の机・椅子 (ホール中央部分)</p> <p>⑤ 管理棟と工場の煙突を一体化</p> <p>⑥ 建物 (煙突部分) の中段には展望台と「森のレストラン」を併設</p> <p>⑦ 展望台とレストランはガラス張り</p> <p>⑧ らせん階段の設置</p> <p>⑨ 障害者や高齢者用にエレベーター1台完備</p> <p>⑩ 遊歩道の途中 (山の斜面) から出入り可能な渡り廊下の建設</p>	<p>主体：浜松市</p> <p>管理/運営：浜松市が管理会社 (新設) に委託</p> <p><体制></p> <p>「エコライフはままつ」のメンバー数名がオプザバーとして管理会社に加入、環境啓発に対する指導を行う</p>
施設の外観	自然環境に馴染むデザイン	市民	一般公募	施設の愛称は「森のエコパーク」		募集：浜松市

新清掃工場等の啓発施設整備に係るワークショップ 第3回目

クロモジ班 (グループリーダー：高根 美保)

企画 プログラム	主旨	対象者 (需要先)	仕組み	効果	設備	運営者 体制 (資金)
企画 プログラム	集客 体験型施設	学校 (主に小 学校) 市民：家族連 れ等 民間企業	① 100名程度が宿泊 可能な畳の部屋 固定の仕切りは作 らない ② 設備の管理や変更 には「エコ講座」 を開催して行う	日本の伝統的なエコを体 験できる (地域も含めて) ・布団の内直し 民間企業に協力を依頼 ・畳の張替え 畳組合に協力を依頼 ・障子張替え	① 建物は3階建 ② 2階畳の部屋 ③ 仕切り (移動 可)、積み木型の ものを間伐材で 作る ④ 綿布団 ⑤ 業務用洗濯機	主体：浜松市 企画/運営：NPO <体制> 地元企業との協働
	防災拠点	地域住民 市民	災害時の防災拠点	施設内設備の有効利用と 電気・熱エネルギーの有効 利用	① 清掃工場の屋上 に「ヘリポート」 ② 1階多目的倉 庫・トラック搬 入口 ③ WiFi スポット	主体：浜松市 企画/運営：NPO
	星空観察の出来るお風 呂 (展望風呂)	市民 地域住民 (下阿多古地 区住民の利用 無料)	清掃工場の熱エネル ギーを有効利用する	展望風呂：自然観察 地域を一望できる (森、遠州灘、街並み)	① 男女別10名程度 が入れる大きさ ② ガラス張り (外 が見える) ③ サウナ完備 ④ ベランダ式 外風呂	主体：浜松市 企画/運営：NPO

企画	主旨	対象者 (需要先)	仕組み	効果	設備	運営者 体制 (資金)
食物循環の輪 プログラム	エコ講座	市民、地域住民	エコクッキング したいだけの菌打ち 畑をつくる 収穫体験 生ごみコンポスト 堆肥化	エコクッキングで出た生 ごみは、堆肥化する 料理と栽培と通じて食物 循環の輪を体験する。 見学者や工場勤務者のお 弁当残渣等を堆肥に使用 することで、ごみ減量の意 識を高める	業務用 IH 1 台 ※災害時に使用でき るもの 家庭用 IH 5 台 ※家庭科室のイメー ジ ガスコンロ (災害用) ※災害時用 業務用冷蔵庫 1 台 畑 (更新用地)	主体：浜松市 企画/運営：NPO
	植物工場	民間企業	更新用地利用 契約年数 15 年	植物工場の電気・蒸気・水 は、清掃工場のエネルギー を有効利用する	植物工場の建設	浜松商工会議所 農工連携委員会に 提案
企業との協働	企業の環境活動を紹介 する	地域企業	企業の環境への取り 組みを紹介するコー ナーを設置	地域企業	正面玄関に設置 2 坪スペース 6 ヶ月更新 コンセント ネット環境 机 パネル	主体：浜松市 企画/運営：NPO ＜体制＞ 地域企業 スペース貸し (有 料)

企画 プログラム	主旨	対象者 (需要先)	仕組み	効果	設備	運営者 体制 (資金)
自然体験	阿多古川の自然体験エリア	市民	阿多古川をイメージした川で子どもが水遊びのできるミニニースペース	工場排水の安心・安全性をPR	正面玄関横 (屋外) にビオトープをつくる ビオトープ内で川魚を飼育	主体：浜松市 企画/運営：NPO
資源物回収	3R 推進	市民	新聞、雑誌・雑がみ、段ボール、古着、一升瓶、ビール瓶、アルミ缶類の回収 工場見学コースに含める	正しい資源物の出し方を学ぶ	正面玄関周辺に回収コンテナを設置	主体：浜松市 企画/運営：NPO ＜体制＞ 再資源業者との協働
建物	理念に基づいた「地球に“やさしい”取り組み	市民	自然を取り入れる	エネルギーの有効利用	館内照明：LED 内装：天竜杉使用 屋根：太陽光パネル 空調：エコハウスの技術を有効利用 壁：珪藻土 外壁：防汚テクノロジー ジュー (カタツムリの殻をヒントに生まれた技術)	主体：浜松市 企画/運営：NPO
施設の名称	理念に基づいた「地球に“やさしい”取り組みをイメージする	市民	一般公募	クリーンセンター ○○		募集：浜松市